



BikeBros. プレゼンツ RIDING Dr.皆木のバイクブロス

BikeBros. Riding School



こんにちは、ライディング
Dr.皆木です(^^)/

今回のスクールテーマは、「怖い加速! 安全な加速!」です。「加速はいつでも気持ちいい!」って言っているあなた! 実は怖い加速になっていませんか!?

加速はオートバイの醍醐味です。あの加速感は4輪にはないですよね。バイク特有の「バンクと加速」この二つを安全に楽しみたいものです。しかしこの2つがあるからこそ危険もあるので上手くコントロールしなければいけないんですね(^^)。では「安全な加速」とはどんな状態でしょうか?

- ◆バイクがバンクし過ぎていない状態
⇒スリップしない。
- ◆タイヤのグリップがいい状態
⇒スリップしない。

この三つの状態がグリップを失わない安全な加速を生み出します。しかし!! 「バイクがバンクしていない状態」って言われたって、バンクすることがバイクの醍醐味なんですからバンクさせないで乗るなんて真っ平です(笑)。いかにコーナーの加速区間でマシンを起こして加速できるかと言う事です!

そして! 「タイヤのグリップがいい状態」って言ってもいつも新品タイヤと言ふわけにも行きませんから、タイヤ自体のコンディションはもちろん、タイヤがグリップを発生しやすい状態をライダーが作りたいということです。これにはライディングテクニックも必要ですが、バイクのサスペンションの調整を変える事である程度いい状態を作る事が出来るんです。

(^o^) Dr.ミナキの安全な 加速度チェック

バンク角編

①コーナーの進入時(ブラインドコーナーでも)出口に視線を向けています。
⇒これにより出口で楽なラインに乗るために先行操作が出来ます。

②コーナーの前半でスピードを殺しバンクを素早くしようという意識がある。
⇒正しい意識(知識)がバイクのライディングには不可欠です。

③クリッピングポイント(一番イン側によるところ)を通り過ぎる時にはアクセルを開け始めている。
⇒前半である程度向きが変わっていなければこれは出来ません。

④クリッピングポイントを過ぎた辺りからバイクを起こそうという意識がある。
⇒クリッピングからはバイクを起こさなければいけないと言う正しい意識(知識)が、コーナー進入時点での操作までも変える事になります。



グリップ編

①1年内に交換したタイヤで、尚且つサイドの溝もしっかり残っている。
⇒タイヤは減れば減るほどグリップが弱くなります。またコンパウンドと呼ばれるタイヤの接地面は装着して1年もたてば本来のグリップを発揮しません。

②タイヤの空気圧を適正にしている。
⇒最近のラジアルタイヤは、どんどん潰れ易い傾向にあります。ということはタイヤの空気圧の影響をとても受け易いということです。高すぎたり低すぎたりすると本来の旋回性やグリップが全く出ません。

③出口が見えてから一気にアクセルを開けていませんか?!
⇒出口に向かうラインに早めに乗っていれば、少しづつアクセルを開け始める事が出来ます。そうすることできが早めに潰れ始め接地面が増え、グリップを高める事が出来るのです。一気にワイドオープンは危険です(+_+)

④リアサスが加速中にちゃんと沈んでいる
⇒サスが硬すぎるとタイヤのグリップが出ません。バンクしたときに初期作動で動きすぎるのはよくありませんが、アクセルを開けた時にサスが沈む感じがつかめる程度に柔らかく調整したいものです。



申込 & お問い合わせ

(※事前の電話での御予約と申込書が必要になります)

[HSR九州] 「BikeBros.ライディングスクール」係 〒869-1231熊本県菊池郡大津町平川1500 TEL:096-293-1370 URL:<http://www.hsr.jp/>

[RSG] 「BikeBros.ライディングスクール」係 〒811-1242福岡県筑紫郡那珂川町西隈4-9-5 TEL:092-951-2299 URL:<http://rsg-sports.com/>